

はじめに

みんなに本をすすめたい！

みなさんがこれまで読んだ本の中に、お気に入りの一冊はありますか。感動したり、ワクワクしたり、ドキドキしたり、新しいことを知ったり……、そんな読書体験ができるお気に入りの本を、友だちに読んでもらいたいと思いませんか。

本の中には一つの世界があります。ページを開いて読み進めると出あうことができますが、読んでみないとけっして出あうことはできません。あなたのお気に入りの本とまだ出あえていない人に、その本を手にとってもらうにはどうしたらいいのでしょうか。

あなた自身がまず一冊の本の世界をよく知り、「本を読んで感じたこと」「その本が伝えたいこと」「手にとってみたいと思わせるアピールポイント」などを考えてみましょう。そして、その本がもつ魅力をいろいろな方法で表現し、みんなにとどけてみましょう。

この本では、「POP作り」をとり上げます。POPは書店などのお店で、小さなカードを使って商品を紹介する方法です。かぎられたスペースの中で、本を魅力的に思わせるキャッチフレーズを考えたり、心ひかれるイラストやデザインを工夫したりしてみてください。

では、さっそくPOP作りに挑戦していきましょう！

みんなで図書館活動 この本、おすすめします！

① POPを作ろう

もくじ

【はじめに】 みんなに本をすすめたい！ 2

POPって何？ 4

本の魅力をPOPで伝える 6

気をつけよう！ 著作権 12

POPを作ってみよう

① 本を選ぼう 14

② 作品の感想をメモしよう 16

③ どんなPOPにするか考えよう 18

④ 下描きを作ろう 20

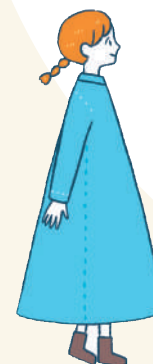
⑤ キャッチコピーを考えよう 24

⑥ 紹介文を書こう 25

⑦ POPを仕上げよう 26

⑧ 完成したPOPをかざろう 29

パソコンで作るPOP 30



POPって何？

書店やスーパーマーケットなどのお店の中で、商品といっしょに、値段やおすすめのポイント、あるいは「3割引!」とか「売れています!」などと書かれたカードがかざられているのを見たことはありませんか？これが「POP」です。

POPとは？



POPは、英語のPoint Of Purchaseの頭文字をとったもので、「購買時点広告」や「購入意欲促進広告」という意味があり、商品の近くに置かれています。

お客さんに商品を買ってもらうために考えられたもので、アメリカから日本へ、1950年代後半に伝わりました。

POPの役割

POPは、お店の人にわかってお客さんに商品の魅力を伝え、「これを買いたい」と思わせるのが目的です。

本の場合は、「この本を読みたい!」と思って手にとってもらえるようなPOPをめざしましょう。そのためには、次のことが大切です。

POPで大切なこと

- ①目を止めてもらうため、目立つ！
- ②本の魅力を具体的に伝える

街の中のPOPをさがそう

実際のお店には、どんなPOPがあるでしょうか。代表的なものを例に、POPならではの工夫を紹介します。あなたの近くのお店にはどんなものがあるか、さがしてみてください。

商品をイメージしたデザイン

POPの形そのものや、文字の色を商品に合わせることで、パッと見ただけで何の商品のPOPかがわかり、お客さんの関心をひくことができます。



訴えたいポイントを大きくする

商品の名前よりも、値段や割引、人気度など、お客さんが買いたくなるようなポイントを一番大きくして、目を止めてもらいます。

当店売上
No.1

「ほしい!」と思わせるフレーズを使う

みんなと同じように、自分もそれをほしい、読みたい、と思わせる言葉、目を引く言葉を使いましょう。おもしろさ、不思議さなどで、「何かな?」と興味をもってもらうこともPOPの役割です。



POPを作ってみよう

④ 下描きを作ろう

どんなPOPにするか、全体のイメージをノートや紙に描いてみましょう。ハガキくらいの大きさで、POPの下描きを作ります。「本の題名」「キャッチコピー」などの要素を、どの位置に、どれくらいの大きさで入れるかデザインを考えます。

感想からイメージをふくらませよう

読書メモ（P.17）で書いた自分の感想をもとに、POPを構成します。必要な要素（P.18、19）やイラストを置く場所と大きさを決めます。

『銀河鉄道の夜』を読んで、
わたしはジョバンニとカムパネルラの
友情が心に残ったな。二人の姿を
イラストにして、夜空と星も描きたい。

題名を一番目立たせたいな。
文字の中で一番大きくして、
一番上に書こうかな。

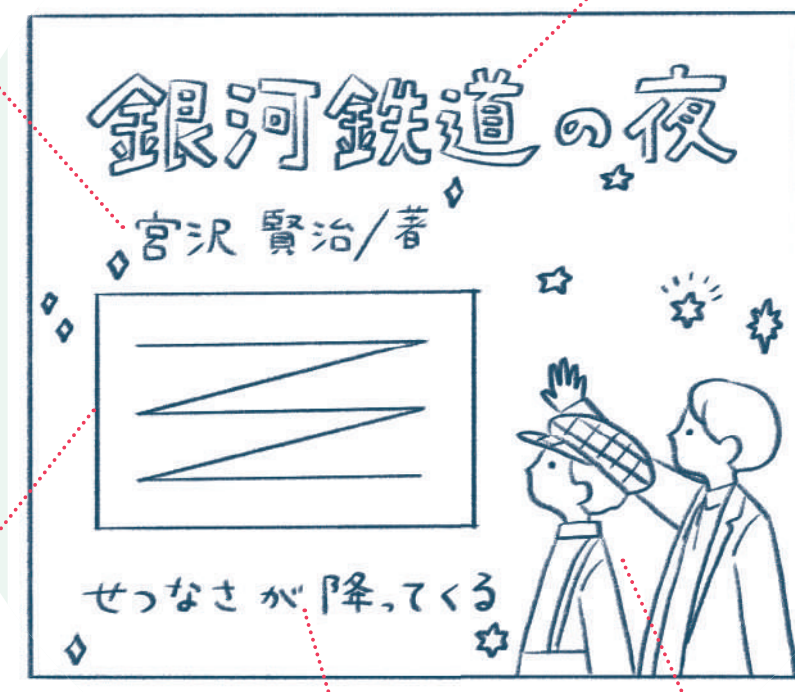


● 著者名

著者であることがわかるように、題名の近くに入れたり、「作」や「著」といった表記をつける

● 本の題名

立体的にして
一番目立たせる



● 紹介文

文字数が多いので、
小さい文字にする

● キャッチコピー

本の題名の次に
大きい文字で入れる

● イラスト

登場人物の二人が
ならんで星空を見ている
イメージの絵を入れる



目立たせたい要素は大きく

デザインするときは、見てほしい要素や大事な要素を大きくあつかいます。上の例では、「本の題名」「著者名」「キャッチコピー」「紹介文」と文字がたくさん入るので、文字のサイズに大小をつけています。題名をぐっと大きく、紹介文の文字は小さくすることで、題名が一番目立つようになります。